

安全安心 三陸高潮事業「津軽石川水門」竣工!!

～管理受託式を開催しました。～

宮古地方振興局

3月23日



県が、津波対策のために整備を進めてきた宮古市の「津軽石川水門」が竣工しました。竣工後の水門の管理は、地元宮古市が担うことから、県から宮古市への水門の管理受託式が開催されました。

管理受託式は、宮古市長をはじめ市関係者、伊藤県議会議長、平沼県議会議員、宮古市議会議員、宮古市消防関係者、消防団分団長ほか県関係者も見守る中、盛大に開催されました。

宮古市長からは、「宮城県沖地震は今後 30 年以内に 99%の確立で発生すると言われており、このような県内でも最大級の水門が完成し大変心強い。県から受託することになる津軽石川水門を責任持って管理します。」と挨拶がありました。

伊藤県議会議長からは、「国道 45 号と並行する津軽石川沿いに桜の木を 500 本植樹する計画としている。今回完成した水門とあわせ、当地の新たな名所ができた。」また、平沼県議からは、「水門によって津軽石地区の津波に対する整備が完成したが、いまだ未整備の箇所もあり、洪水等の災害に対応する整備等についても期待したい。」と挨拶がありました。

津軽石川水門は総事業費 124 億 7 千万円を投じ、平成元年の事業着手から 18 年をかけて完成した県内では小本川水門に次ぐ 2 番目の規模の水門です。水門の高さは、明治三陸津波地震（1896）の平均の波の高さ 8.5 mに合わせて作られています。津軽石川水門と防潮堤の完成により、780 世帯の家屋と約 220ha の土地を津波から守ることが見込まれています。



ゲートの降下状況



右岸下流側より水門を望む



テープカットの様子